

Ⅱ 主催事業の実施報告

- 1 子どもたちを取り巻く教育課題や
現代的課題に対応する事業

1 事業のねらい

障がいのある子どもとその保護者や関わりのある方を対象に、自然体験や生活体験などの活動をおして、生涯に渡って学び続けようとする意識を高める。

2 事業の概要

- 期日 R4.8.22(月) 日帰り
- 対象 小学1年生から中学3年生 引率教員
- 人数 9名(小学生3名 中学生2名 教員4名)
- 場所 砂川オアシスパーク(遊水地)

3 プログラム

	8:45	8:50	9:00	12:00	12:30	13:00
22日(月)	集合場所：砂川遊水地 集合時刻：8:45～	受付	出合いの集い 釣り体験	昼食	別れの集い	解散場所：砂川遊水地 解散時刻：13:00

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 地域資源を生かした体験プログラム
 - ・砂川市にある砂川オアシスパーク(遊水地)を活用したプログラムの体験であり、事業以外でも取り組みやすい活動を行うことで長期にわたるチャレンジにつながるように考えた。
- 達成感を味わいやすいプログラム
 - ・川や海と比較すると釣りやすい遊水地でのチャレンジであるため成功体験を重ねられ、学び続ける意欲を高められるように考えた。

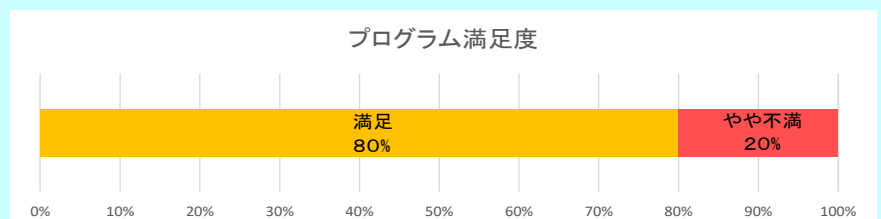


地域資源を生かした釣り体験



成功体験の積み重ね

5 事業の評価



- 参加者アンケートから、5人中4人が満足と評価。1名やや不満との回答だが理由の記載がありミミズが苦手だったためとあった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- アンケートの自由記載欄に「たくさん釣れてうれしかった」「また釣りに行きたい」とあり、チャレンジし続ける意欲を高めるための成果はあったと考える。
- 砂川遊水地は安全で簡単に釣りをすることができるため、小学1年生の参加者でもたくさんの魚を釣り上げることができ、今後の様々なチャレンジへの意欲が高まる成功体験となったと考えられる。
- 障がい者の生涯学習を更に広めるために、学校や関連組織との連携のあり方を再検討する必要がある。



企画のポイント

小さな成功体験を積み重ねることで、チャレンジし続ける意欲を高める。

パラスポチャレンジ

1 事業のねらい

障害者の生涯学習推進に向け、アダプテッド・スポーツを研究する大学と連携し、小・中学生に障害の有無にかかわらず共にスポーツに取り組む楽しさを体験させることを通じて、障害の有無にかかわらず社会参加や活躍の場づくりの機会とするとともに、障害者の学びを支援する人材育成の基盤とする。

2 事業の概要

- 期日 R4.12.3(土)～4日(日) 一泊二日
- 対象 小学生～中学生
(障がいのある人もない人も)
- 人数 25名
(障がいなし18名 情緒・知的障がい7名)
- 場所 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川

3 プログラム

12/3(土) ～ 4(日)	13:30		14:00	14:30	17:00			17:30	18:30	21:30		22:00
	受付開始時間：13:30		受付	出合いの つどい	活動1 パラリンピック競技、アダプテッ ドスポーツ等の体験			夕 食	自由参加活動(焚火、カ ード・ボードゲーム等) 入浴	就寝 準備	就寝	
	6:30	7:30	8:30	9:00	11:00	11:20	12:00					
	起 床	準 備	朝 食	部屋清掃 部屋点検	活動2 チームで対戦 (ポッチャ総当たり戦)		ふりか えり	別れの つどい	解散			

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 障がい者が生涯にわたりスポーツを楽しみ健康の増進を図るきっかけとする。北海道教育大岩見沢校との連携で、普段目にすることが少ない競技用車いす等の用具を用意でき、また教育大生が参加者の活動のサポートにあたった。
- 障がいの有無に関わらず共に活動ができる社会づくりの一助とする。車いす体験で足の不自由な人、アイマスクを使用してのブラインドサッカー等で目の不自由な人の状態を体験し、障がい者理解の機会とした。



アイスマスクでの
ブラインドアクティビティ



車いす競技体験



ポッチャ体験

5 事業の評価

	よくあてはまる	まあまああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
①私はアダプテッドスポーツは楽しいと思う	82.4%	11.8%	5.9%	0.0%
②私はこれからもアダプテッドスポーツをしたいと思う	52.9%	29.4%	5.9%	11.8%
③私はアダプテッドスポーツはカッコいいと思う	35.3%	52.9%	5.9%	5.9%
④私はアダプテッドスポーツは難しいと思う	47.1%	41.2%	11.8%	0.0%
⑤私は障がいのある人がスポーツをするのは危険だと思う	23.5%	23.5%	35.3%	17.6%
⑥私は障がいのある人もスポーツが好きだと思う	70.6%	29.4%	0.0%	0.0%
⑦私は障がいのある人といっしょにスポーツをしたいと思う	17.6%	64.7%	17.6%	0.0%
⑧私は障がいのある人といっしょに学校生活をしたいと思う	17.6%	52.9%	23.5%	5.9%
⑨私は障がいのある人と積極的に交流したいと思う	23.5%	41.2%	35.3%	0.0%
⑩私はこれからもいろいろなスポーツに挑戦したいと思う	82.4%	11.8%	5.9%	0.0%

- 評価の高かった項目①⑥⑩(「よくあてはまる」または「まあまああてはまる」が90%以上)
スポーツの楽しさを再認識することでこれからもチャレンジする意欲が高まり、障がいのある人でも同じくスポーツを楽しめると感じたと考察する。
- 評価の低かった項目⑧⑨(「あまりあてはまらない」または「まったくあてはまらない」が25%以上)
低学年ほど低い評価であることを考えると、障がい者とスポーツそのものを楽しむことはできると感じたが、障がい者との共生とまでは考えられなかったと考察する。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 様々なスポーツへ挑戦する姿勢を育てる
参加者にとってはじめてチャレンジする競技が多く、この事業自体がさまざまなスポーツへの挑戦であった。新しいことへ挑戦する楽しさを体感した参加者が今後もさまざまなスポーツへ挑戦することが期待できる。
- 肢体不自由などの障がい者の参加がなく、障がい者とともに活動する事業にまでは至らなかった。障がいを持つ参加者を確実に集めるためには特別支援学校との連携等を考える必要がある。



企画のポイント

誰でも楽しめるアダプテッド・スポーツをとおして、障がいの有無に関わらず学び続け共生しあう社会形成を考える一助とする。

ジュニアイングリッシュキャンプ

1 事業のねらい

子どもたちに英語や異文化に触れる機会の提供を通し、グローバル人材としての素地を養うとともに、保護者のグローバル化への意識向上や子育てについての学習機会とする。

2 事業の概要

- 期日 R4.12.10(土)～11(日) 1泊2日
- 対象 小1～小3までの児童とその保護者
- 人数 13家族27名
- 場所 ネイパル砂川

3 プログラム

	13:30	14:00	15:30	17:15	18:45	20:00	21:30
12/10 (土)	13:00～ 受付	出合いの つどい	活動1 子ども：えいご de ゲーム 保護者：講演会	活動2 クリスマスの飾り 作り	夕食	活動3 えいご de ジャパニーズカルチャー	入浴 就寝準備
	6:30	7:30	8:40	9:00	11:10	11:45	
12/11 (日)	起床 洗面 荷物整理	朝食	部屋点検 荷物移動	活動4 ワールドフェスタ	ふりかえり 別れのつどい	解散	

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 異文化への興味・関心を高める
 - ・様々な国の人と交流できるよう、6カ国7名の外国人スタッフを講師として招いた。
 - ・ワールドフェスタでは外国人スタッフの国の様子や文化の話を聞いたり遊びを体験したりするブースを設けた。
- 英語を積極的に使う態度を養う
 - ・出合いのつどいで「新しい英語を3個以上覚えよう」と目標設定をした。
 - ・英語が苦手な子どもにも支援できるように学生ボランティア10名に来てもらった。

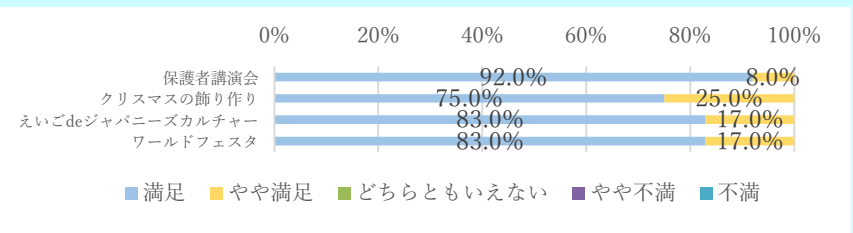


外国人スタッフの出身国の紹介



学生ボランティアによる細やかな支援

5 事業の評価



- 保護者アンケートから、プログラムに対する評価は、満足+やや満足の合計が全てのプログラムで100%になる等、高い評価を得た。
- 学生ボランティアの細やかな支援もあり、英語が苦手な参加者でも積極的に英語を使って活動をすることができた。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「新しい英語を覚えられた。外国の人とお話をいっぱいできた。」「英語が分からなくても自然と学べる工夫がされていて子どもも喜んでいました。」などの感想から、様々な活動を通して楽しみながら英語を積極的に使ったことが考えられる。
- 「もう少し英語を話す機会があるといいと思いました。」との感想もあったことから活動の中で英語のやり取りをする場面を更に取り入れていくことも必要である。



企画のポイント

様々な出身地の外国人スタッフとの異文化交流を通してグローバル人材の素地を養う。

ネイパル砂川

チャレンジキャンプ

1 事業のねらい

学校生活に悩みを持つ児童・生徒が自然体験や挑戦型の活動等とおして、自分と向き合い、同時に周囲との関係について学ぶ機会とする。

2 事業の概要

- 期日 R4.9.28(水)~29日(木) 一泊二日
- 対象 小学5年生から中学3年生 引率者
- 人数 6名(中学生5名 引率1名)
- 場所 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川 砂川 B&G 海洋センター

3 プログラム

	6:30	7:30	9:00	12:00	12:30	13:00	14:15	14:30	15:15	18:15	19:00	20:00	22:00
28日(水)	集合場所：ネイパル砂川 集合時刻：14:15～						出合いの集い	アイスブレイク	野外炊飯 (火おこし体験、夕食づくり)		ベットメイク	たき火	入浴・自由 就寝
29日(木)	起床・清掃	朝食	カヌー体験 荒天時： ニュースポーツ	昼食	別れの集い	解散場所：砂川市 B&G 海洋センター（砂川市西3条北9丁目1-1） 荒天時：ネイパル砂川 解散時刻：13:00（予定）							

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 人とのかかわりの機会
 - ・参加者数に対して多めの大学生ボランティアの協力を得ることで、他者との関りの機会を設ける。
- 協力し合い成功する体験ができるプログラム
 - ・分担しながら行う野外炊事、仲間と息を合わせてボート漕ぎ等、仲間との協力により成し遂げるプログラムを実施した。



仲間と協力し合う野外炊飯



大学生ボランティアとの
メガサップ体験

5 事業の評価

自己認識に関するアンケート集計結果(各質問項目は6点満点で参加者全員の平均数値)

質問項目	事前	事後	変化
1 自分に自信を持っている。	2.6	2.6	0.0
2 自分は色々な人たちに助けられながら生きていると思う。	5.2	5.4	0.2
3 友達の考えをよく聞くほうである。	4.8	4.8	0.0
4 困っている友だちを、助けるほうである。	4.2	4.6	0.4
5 人の役に立つことをしたいと思っている。	4.8	5.0	0.2
6 がんばれば、できないこともできるようになると思う。	4.0	3.8	-0.2
7 何にでも興味を持つことが多い。	4.2	4.2	0.0

■自己概念アンケート集計結果から

- ・質問項目2と5で0.2、質問項目4で0.4の上昇が見られた。野外炊事やボートなど協力し合う場面が多かったことが要因と考えられる。
- ・質問項目1では変化が見られず、質問項目6では0.2の下降が見られた。頑張って目標を成し遂げる活動にまでは至らなかったことが要因と考えられる。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 野外炊飯やボート漕ぎなど仲間との協力する機会となるプログラムを行うことで、助け合い他者との関りの大切さを感じさせる機会にできた。
- 小さな成功体験をすることはできたが、自分に自信を持たせ様々なことに挑戦する意欲を育むまでは至らなかった。その点を向上させるには、頑張って大きなことを成し遂げる体験が必要と思われるが、1泊2日の事業では難しいと考えられる。

企画のポイント

仲間と協力しての成功体験を積むことで、新たな人との関りや様々なことへ挑戦する意欲を持つことができる。

遊 Can イングリッシュ

1 事業のねらい

子どもたちに海外の文化や英語に触れる機会をつくり、諸外国の歴史や文化、伝統等について理解を深め、尊重し、様々な価値観を持つきっかけを作ります。

2 事業の概要

- 期日 R4.10.15(土)~16(日)1泊2日
- 対象 小学校4年生~中学校3年生
- 人数 14名
- 場所 ネイパル深川
- 協力 深川市教育委員会 旭川市教育委員会 芦別市教育委員会

3 プログラム

日時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
10/15 (土)	★受付時間 13:00~13:30 ★開会式 13:30~14:00						受付	開会式	アイスブレイク	イングリッシュレク	夕食	フリーカフェ	自由入浴	消灯			
10/16 (日)	朝食	ワールドツアー				解散	★解散時間12:00										

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 遊びを通じた英語学習プログラムの提供
 - ・ビンゴや神経衰弱、すごろく等の遊びの中に英語を使用する要素を取り入れ、楽しみながら学べるように企画。
- ALTの外国文化紹介
 - ・ニュージーランドやアメリカ出身のALTを招待し、外国の食文化や生活文化を学ぶ機会を提供。
 - ・画像や音声、動画、レク、試食などの様々な体験ができるようにし、五感を使って学び、より深い理解を得られる内容を工夫した。

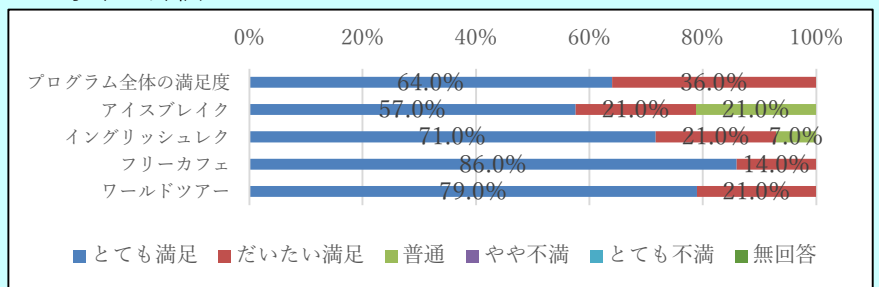


英語を使うレクを楽しんで学ぶ



ALTの外国紹介ブース

5 事業の評価



- 参加者アンケートから、
 - ・ALTの人と話すのが楽しかった。
 - ・英語にさらに興味を持った。英語をもっと頑張ろうと思えた。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 英語の授業とは違い、遊びや体験を通じて英語や外国文化に触れる内容を提供したことで、子どもたちにもっと外国の人と交流したいという意欲を生み出すことができた。
- ALTの出身国に偏りがあったため、「諸外国の歴史や文化について理解を深める」という点においては内容が絞られてしまった。今後は様々な文化圏の外国人講師を集められるよう努めたい。



企画のポイント

楽しみながら英語や外国文化について学習できる内容の体験プログラムを提供する。

ネイパル子どもエコクラブ①

1 事業のねらい

地域の資源を活用し、SDGsの視点を取り組みに入れた活動を通じて、環境に積極的に取り組む心をはぐくむ。

2 事業の概要

- 期日 令和4年7月2日(土)～3日(日) 1泊2日
- 対象 小学2年生～6年生
- 人数 23名
- 場所 ネイパル厚岸

3 プログラム

Kids		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
7月2日	晴 天									開 会 式	ネ イ チ ャ ー ゲ ー ム	遺 跡 の 森 散 歩	休 憩	運 具 準 備	夕 食	入 浴	就 寝 準 備	就 寝
7月3日	晴 天	起 床	身 支 度	朝 食	部 屋 の 片 づ け	サ ン ド ・ ア ー ト	休 憩	昼 食	閉 会 式									

Ranger		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
7月2日	晴 天									開 会 式	導 入	「科学者は何を する人なの？」 ①	遺 跡 の 森 散 歩	夕 食	「科学者は何を する人なの？」 ②	入 浴	就 寝 準 備	就 寝
7月3日	晴 天	起 床	洗 面	朝 食	片 づ け	ビ ー チ コ ー ミ ン グ 漂 着 物 調 査	昼 食	閉 会 式										

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 学習段階毎に異なる体験プログラム
 - ・中学年のジュニアレンジャー、高学年のレンジャーは異なるゴール設定を示して取り組んだ。
 - ・低学年のキッズレンジャーは別のプログラムを用意した。
- 科学者の視点を学ぶプログラム
 - ・理科教育プログラム（「GAMS」、「Project WET」等）を活用し、原因追及や解決を模索する方法を学んだ。



低学年 ネイチャーゲーム



ビーチコーミング

5 事業の評価

3回連続企画であることから、事業終了後に評価を行う。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 科学者は何をやる人か？について「調べて法則を見つける人」という理解につながり、現状について調べてみるという3回の事業の見通しをもつことができた。
- 低学年向けのプログラムは中高学年とはまったく異なるアプローチが必要である。



企画のポイント

科学者の視点を身に着け、3回の事業を見通した内容と、学習段階に応じた内容のプログラムを提供する。

ネイパル子どもエコクラブ②

1 事業のねらい

地域の資源を活用し、SDGsの視点を取り組みに入れた活動を通じて、環境に積極的に取り組む心をはぐくむ。

2 事業の概要

- 期日 令和4年8月11日(木)～12日(土) 2泊3日
- 対象 小学2年生～6年生
- 人数 21名
- 場所 ネイパル北見

3 プログラム

Kids		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	備考		
8/11	晴											開会式	ビーチコーミング	休憩	風呂準備	夕食	入浴	就寝準備	就寝		
	天																				
8/12	晴	起床	洗面	朝食	片付け	『藻類物の標本づくり』	休憩	昼食	開会式	解散											
	天																				
8/11	晴											開会式	導入	「水質」って何?	藻類の観察	夕食	水質調査の練習	入浴	就寝準備	就寝	
	天																				
8/12	晴	起床	洗面	朝食	休憩	かまーいかに体験(水質調査)	昼食	水質調査のまとめ	SDGsって何?(外部講師)	「サステイナブル」ってなんだろう	休憩	夕食	入浴	自由	就寝準備	就寝					
	天																				
8/13	晴	起床	洗面	朝食	休憩	砂の中のマイクロプラスチックを探そう	昼食														
	天																				

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 学習段階毎に異なる体験プログラム
 - ・中学年のジュニアレンジャー、高学年のレンジャーは異なるゴール設定を示して取り組んだ。
 - ・低学年のキッズレンジャーは1泊2日とし日程を短縮し別のプログラムを用意した。
- SDGsを学ぶプログラム
 - ・外部講師を招いてSDGsやサステイナブルについて学ぶ機会を設けた。



サロマ湖の水質調査



低学年 ビーチコーミング

5 事業の評価

3回連続企画であることから、事業終了後に評価を行う。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 北海道環境財団より講師を派遣していただきSDGsへの理解が深まった。
- 湖沼の水質の調査方法やデータの読み取りかたがわかる等の科学的に環境について知る方法を身に着けた。



企画のポイント

フィールドワークを中心とし、講師を招いて水質調査など科学的に調べるプログラムを通してSDGsについて学ぶ場面の設定。